

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-327535

(43) 公開日 平成6年(1994)11月29日

(51) IntCl⁵

A 4 7 C 7/38

識別記号

庁内整理番号

8313-3K

P I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1 OL (全5頁)

(21) 出願番号 特願平5-117016

(22) 出願日 平成5年(1993)5月19日

(71) 出願人 000000011

アイシン精機株式会社

愛知県刈谷市朝日町2丁目1番地

(72) 発明者 武田 伸彦

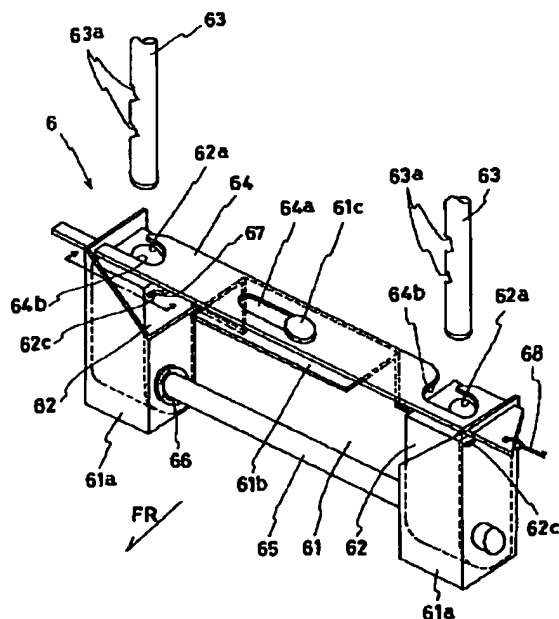
愛知県刈谷市朝日町2丁目1番地 アイシン精機株式会社内

(54) 【発明の名称】 ヘッドレスト装置

(57) 【要約】

【目的】 簡単な構造でヘッドレストステーの可動及び回動ができるヘッドレスト装置を提供すること。

【構成】 ヘッドレストステー(63)が可動自在に支持されるサポート部材(62)をブラケット(61)に回動自在に支持させ、しかも、サポート部材(62)の回動動作を移動動作によつて許容又は規制するロックプレート(64)をブラケット(61)に支持させた。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 固定部材と、該固定部材に回動自在に支持されたサポート部材と、該サポート部材に可動自在に支持されたヘッドレストステータと、前記固定部材に移動自在に支持され移動動作によつて前記サポート部材の回動動作を許容又は規制するロックプレートとを有するヘッドレスト装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の目的】

【0002】

【産業上の利用分野】本発明は、可倒式ヘッドレスト装置に関するものである。

【0003】

【従来の技術】従来、この種のヘッドレスト装置としては、実開平2-64439号公報に示されるものが知られている。シートバック内に回動自在に支持されたヘッドレストステータと、ブラケットに固定されヘッドレストステータと係脱するロック機構とを有するものであつた。この従来装置では、ロック機構が作動してヘッドレストステータが解除状態となることにより、ヘッドレストステータがブラケットに対して回動し、これにより、ヘッドレストステータに取り付けられたヘッドレスト本体がシートバックに対して可倒された状態となるものであつた。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかし、上記した従来装置であると、ヘッドレスト本体をシートバックに対して上下動させる等のためにヘッドレストステータを可動させることができず、ヘッドレストステータを可動させるためにはヘッドレストステータの回動支持部分ごと移動させなければならなくなり、ガイドレール等の多くの構成部品を必要として複雑な構造となるものであつた。

【0005】故に、本発明は、簡単な構造でヘッドレストステータの可動及び回動ができるヘッドレスト装置を提供することを、その技術的課題とする。

【0006】

【発明の構成】

【0007】

【課題を解決するための手段】上記技術的課題を解決するために本発明において講じた技術的手段は、固定部材と、該固定部材に回動自在に支持されたサポート部材と、該サポート部材に可動自在に支持されたヘッドレストステータと、前記固定部材に移動自在に支持され移動動作によつて前記サポート部材の回動動作を許容又は規制するロックプレートとを有したことである。

【0008】

【作用】上記技術的手段によれば、ヘッドレストステータは、サポート部材に対して可動し、又、サポート部材の回動によりサポート部材と共に固定部材に対して回動する。これにより、ガイドレール等の多くの構成部品を必

要とせず、サポート部材のみの簡単な構造でヘッドレストステータの回動及び可動が可能となる。

【0009】

【実施例】以下、本発明の一実施例を添付図面に基いて説明する。

【0010】図1に示されるように、リヤシート1は、シートクッション2、シートバック3及びヘッドレスト本体4とから構成されている。

【0011】シートクッション2は、車両のフロア5に周知のヒンジ機構及びロック機構（図示せず）を介して起倒自在に支持されている。シートバック3は、シートクッション2の後部に配置されており、車両の構造物7に周囲のロック機構（図示せず）を介して起倒自在に支持されている。ヘッドレスト本体4はシートバック3に後述する構造体6を介して可倒自在且つ上下動自在に支持されている。

【0012】図2ないし図4に示されるように、構造体6は、ブラケット61、対のサポート部材62、対のヘッドレストステータ63、ロックプレート64とから構成されている。

【0013】ブラケット61は一枚の板材よりなり、両側に一面側に開口した断面コ字状の箱部分61a及び上側に他面側に延在したフランジ部分61bが一体に屈曲形成されている。このブラケット61は箱部分61aがシートバック3の裏側（図1示シート後方側）に開口するようにシートバック3内に固定配置されている（図1示）。対のサポート部材62は、箱部分61a内に夫々配置されており、ブラケット61の箱部分61aを貫通するロッド65により前後方向（図4示左右方向（図1示シート前後方向））に回動自在にブラケット61に支持されロッド65を介して連結されている。尚、ロッド65はEリング66によつてブラケット61に対して抜け止めされている。対のヘッドレストステータ63は、上端がヘッドレスト本体4（図1示）に固定されており、下端がサポート部材62に夫々形成された上下方向（図4示上下方向（図1示シート高さ方向））に延在する穴部62aに挿入されて、サポート部材62に上下方向に可動自在に夫々支持されている。このヘッドレストステータ63には長手方向に渡り複数の切欠63aが夫々形成されており、この切欠63aはサポート部材62に夫々支持された握み可能なスナツプ67と弾力的に係脱自在とされている。尚、スナツプ67は周知の構造であつて、図5に示されるように、サポート部材62に形成された左右方向（図3示左右方向（図1示シート幅方向））に延在する切欠溝62b及び貫通孔62cによりサポート部材62に夫々支持される。ロックプレート64は、一枚の板材よりなり、ブラケット61上に配置され、両端がブラケット61の箱部分61aの側壁に挿通支持されると共にフランジ部61b上に立設されたガイドピン61cがロックプレート64に形成された左右方

3

向に延在するガイド長穴64aに挿通支持されることにより、ブラケット61に左右方向に移動自在に支持されている。尚、ガイドピン61cとガイド長穴64aとの挿通によりロックプレート64の移動範囲を規定している。このロックプレート64にはヘッドレストステー63が挿通される左右方向に延在する係合長穴64bが夫々形成されており、この係合長穴64bの一端部分は切り欠かれて後方(図1示シート後方側)に開口している。又、このロックプレート64はシートバック3側のロック機構を作動させるノブ(図示せず)にワイヤ68を介して連絡されている。

【0014】次に作動について説明する。

【0015】図1はリヤシート1に乗員が着座できる通常状態を示し、シートクッション2はロック機構を介してフロア5に支持された横倒し状態で、シートバック3はロック機構を介して構造物7に支持された起立状態となっており、ヘッドレスト本体4は、ヘッドレストステー63と係合長穴64bの壁との係合によつて乗員の頭部を支持できるシートバック3上に位置するように保持されている。

【0016】この通常状態において、ヘッドレスト本体4を上下動させると、ヘッドレストステー63がサポート部材61に対して上下方向に可動して、ヘッドレストステー63の切欠溝63aとスナツプ67との係合位置が切り換つてゆく。これにより、ヘッドレスト本体4のシートバック3に対する上下位置が調整される。又、ヘッドレスト本体4を最大に上動させると、ヘッドレストステー63がサポート部材61より外れる。これにより、ヘッドレスト本体3がシートバック3から外される。

【0017】通常状態において、シートクツシヨン2側のロック機構を作動させてシートクツシヨン2を起立状態とすると共にシートバック3側のロック機構を作動させてシートバック3を横倒し状態とする。この際、シートバック3側のロック機構を作動させるノブの操作に連動してワイヤ68を介してロックプレート64が引かれ、ロックプレート64がガイドピン61c及びガイド

4

長穴64 aにガイドされながら図3示右方に移動する。これにより、図6に示されるように、ヘッドレストスレー63が係合長穴64 bの開孔した部分に位置するようになり、サポート部材62がロツド65を中心にブラケット61に対して後方(図4示右方)に回転する。結果、図7に示されるように、ヘッドレストスレー63が可倒してヘッドレスト本体4がシートバック3の裏側に位置する可倒状態となる。これら一連の作動によつて、図8に示されるように、リヤシート1が折り畳まれた状態となる。

【0018】

【発明の効果】本発明によれば、ヘッドレストステーは、サポート部材に対して可動し、又、サポート部材の回転によりサポート部材と共に固定部材に対して回転する。これにより、ガイドレール等の多くの構成部品を必要とせず、サポート部材のみの簡単な構造でヘッドレストステーの回転及び可動が可能なものとすることができる。

【図面の簡単な説明】

20 【図1】本発明に係るヘッドレスト装置を採用したリヤシート of 斜視図である。

【図2】本発明に係るヘッドレスト装置の斜視図である。

【図3】図2の上面図である。

【図4】図2の側面図である。

【図5】図2のA-A線断面図である。

【図6】本発明に係るヘッドレスト装置の作動を示す図3に相当する上面図である。

【図7】本発明に係るヘッドレスト装置の作動を示す図
30 4に相当する側面図である。

【図8】本発明に係るヘッドレスト装置を採用したリヤシート₁の作動を示す図1に相当する斜視図である。

【符号の説明】

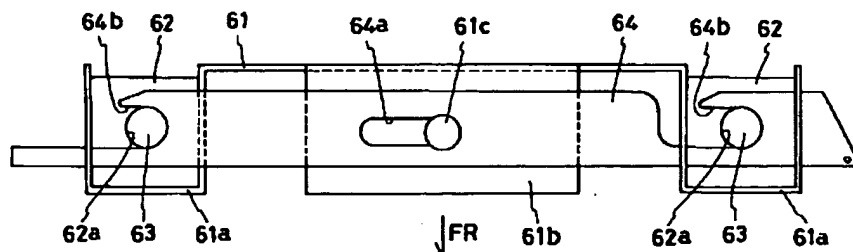
61 ブラケット（固定部材）

62 サポート部材

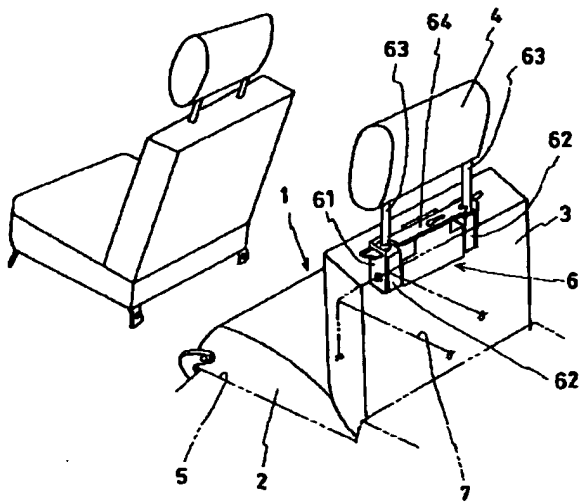
63 ヘッドレストステー

64 ロックプレート

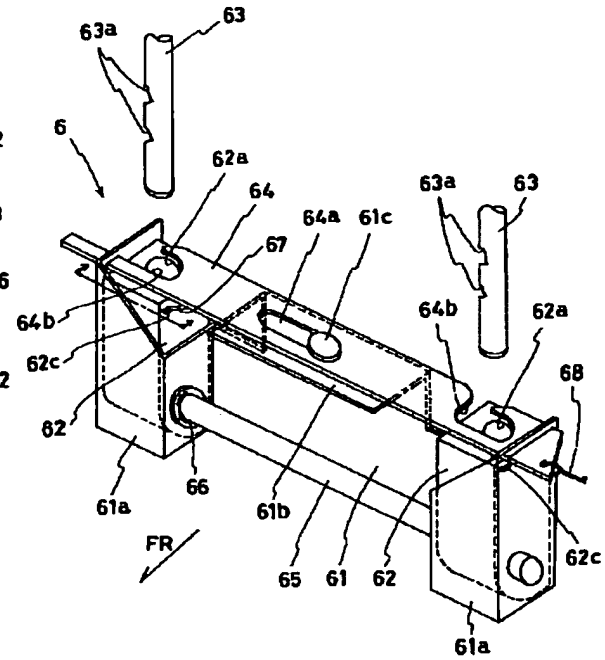
【图3】



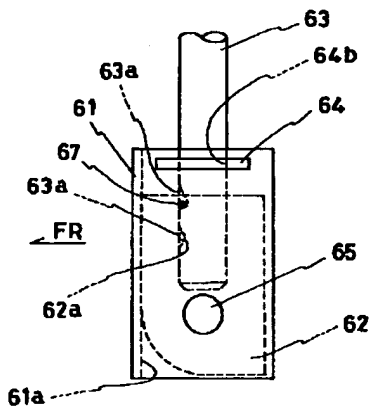
【図1】



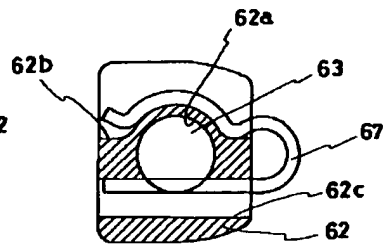
【図2】



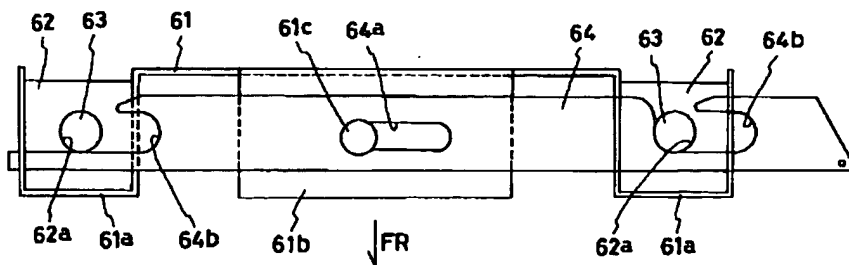
【図4】



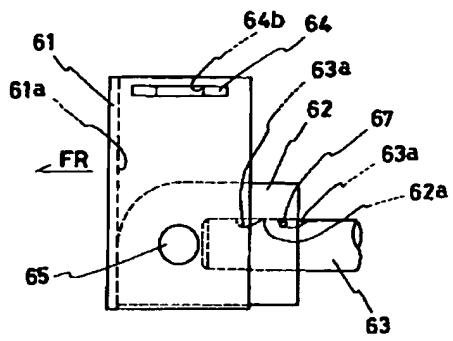
【図5】



【図6】



【図7】



【図8】

